

令和3年度（2021年度）学校版環境ISOへの取組

< 熊本市立西原中学校 >

1 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言		<p>【環境教育目標】様々な活動で環境と触れ合うことを通して、自然環境を守ろうとする心情を育て、環境保全活動に意欲的に参加し、関わろうとする態度や能力を育成する。</p> 
		<p>&lt;生徒宣言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常環境衛生管理を行い、環境委員会で点検します。</li> <li>・室内利用時には、エアコン・電気消し忘れがないよう節電に心がけます。</li> <li>・節水を心がけ、呼びかけます。（手洗い・掃除等）</li> <li>・ゴミを分別し、資源を大切に使います。（リサイクル活動、裏紙再利用）</li> <li>・緑化活動に努め、学校全体で取り組みます。</li> </ul>
		<p>&lt;職員宣言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室内利用時には、エアコン温度設定・電気消し忘れがないよう節電に心がけます。</li> <li>・タブレットを活用し、紙資源を節約します。</li> <li>・ごみの分別を徹底し、資源物置き場の整理を心がけます。</li> <li>・トイレや掃除時の節水を心がけ、呼びかけます。（令和2年度比3%減）</li> <li>・緑化活動に努め、地域や家庭と協力し、学校全体で取り組みます。</li> </ul>
行動		<p>【環境教育を通じて目指す生徒像】</p> <p>令和3年度、西原中学校では『真の「自立」と「共生」～日々の学びを将来へ繋げる生徒の育成～』を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な環境を大切にし、自然や環境に対して関心をもてる生徒</li> <li>○身近な環境について学び、環境や自然と人間とのかかわりについて理解できる生徒</li> <li>○身近な環境のよさに気づき、自ら問題解決していこうとする生徒</li> <li>○身近な環境の保全のために自ら進んで実践できる生徒</li> </ul>

西原中SDGs[人と緑の繋がり]17パートナーシップで目標を達成させよう

## 未来に繋ぐ～西原中シンボルツリー「オガタマ」の取組～

環境整備(西原中伝統を繋ぐ)

令和元年  
シンボルツリー「オガタマ」看板設置  
(オガタマ)  
創立年度植樹管理

令和2年  
校管理 土・排水調整  
(緑化相談)  
未来に繋ぐ緑化活動

令和3年  
手づくりベンチの設置  
(憩いの場)  
コミュニケーションの場

西原中SDGs[人と緑の繋がり]15陸の豊さも守ろう

## 未来に繋ぐ～校内樹木プレート～

プレート作成      サクラ通り      ケヤキ通り      学級園

西原中SDGs[人と緑の繋がり]15陸の豊さも守ろう

## 未来に繋ぐ～「堆肥作り」循環型システム～

朝ボランティア・掃除時  
間で落ち葉を集める

堆肥づくり場に落ち葉  
収集

米ぬか・油かすと混  
ぜる

堆肥は花壇やビニールハウスで  
の苗づくりに活用

落ち葉置き場  
(苗づくり用ポット・プランターに堆  
肥を入れる)

### 【未来に繋ぐ～SDGs 人と緑の繋がり～】

本年度は年間計画を見直し、SDGs（持続可能な開発目標）との関連性を図りながら取り組んでいる。

本校では、創立記念樹「おがたま」をシンボルツリーとし、校内には樹木がたくさん育てられており、人と緑を繋ぐ視点を広げながら、各学級の環境 ISO 活動でも意識を高めている。また、朝の学活時「おがたまタイム」（\*シンボルツリー名称と関連）と各教育活動と関連させ、コミュニケーション力向上を図っている。昨年グラウンドの改修も行われ、憩いの場として、環境整備もされ、手作りベンチの設置を行いながら、グラウンド全体が見渡せるコミュニケーションの場になっている。

### 【未来に繋ぐ～樹木プレート製作の取組～】

学級園や校内の樹木や花のプレートを作成し、緑化活動への意識を高め、環境整備を充実させている。樹木プレートには、校内の木々の紹介や、木は花に関連する俳句や歴史等を記載して興味・関心を高めている。身近な地域や環境について、自分の生活と関連付けて捉え、自然や環境に興味・関心を持つて関わることができることができた。また、生徒の自主的な環境整備を行うことができた。

さらに、持続可能な社会を目指して SDGs の視点「陸の豊さを守ろう」という意識を高め、樹木プレートを通して、人と緑の繋がりを深める機会になった。

### 【未来に繋ぐ～堆肥づくり循環型システム～】

昨年度の実践を見直し、伝統を継承しながら、西原中学生徒会では、SDGs（持続可能な開発目標）と環境 ISO 活動との関連を図りながら取り組んでいる。

朝のボランティア活動や掃除活動で、校内の落ち葉を集め、堆肥づくりを行い、堆肥は花壇やビニールハウスでの苗づくりや肥料として活用することができた。

また、地域ボランティアの方とともに、苗作りを行い、緑化環境を整えることができた。さらに、地域交流事業では、道路沿いは、地域の交流の場「ふれあい通り」のプランターや校内の花壇で苗を植え、みんなで大切に育て、地域との連携を図ることができた。身近な活動を行うことを通して環境問題についての理解を深め、自ら参加しようとする態度に繋がっていった。





### 【みんなで彩る～学級園花壇交流活動～】

学級園では、掃除の時間に緑化委員会を中心に、1年～3年まで縦割り活動を行い、学級園の整備をしている。種から育てた苗を育て、花を咲かせ、種採取まで行っている。花壇では、季節の花を花壇やプランターを年間通して整備している。

また、中庭の芝生化や樹木を維持管理することで、夏は各校舎の温度を低下させることができた。自然環境と触れ合い、自然に親しむことにより、豊かな感性を育み、身近な緑化活動を通して、教室の中や校庭などの身のまわりの環境保全に努める意識を高めることに繋がっていった。

### 【みんなで彩る～緑化と環境との関連～】

<地球温暖化防止・省エネルギー・水保全>  
省エネルギー・地球温暖化防止対策として、校舎沿いのグリーンカーテンを活用した。さらに、循環型社会を目指して、資源分別を行い、生徒・教師とも意識を高め、リサイクル活動を行っている。夏は、樹木カーテンやゴーヤのグリーンカーテンを利用し室内温度上昇を防ぎ、学級園では、中庭の芝生化を図っている。冬は、枯れ葉を集め、堆肥に活用し、樹木剪定整備を行うことで太陽光エネルギーを活用し、室内温度を調整することができた。本年度も雨水タンクを利用しながら、太陽光エネルギーを活用し、苗生育の温度管理を行うことができた。掃除の時には、バケツに水を汲み、雨水を活用しながら、花の水やりを行い節水に心がけた。

### 【みんなで彩る～学校・家庭・地域とのつながり～】

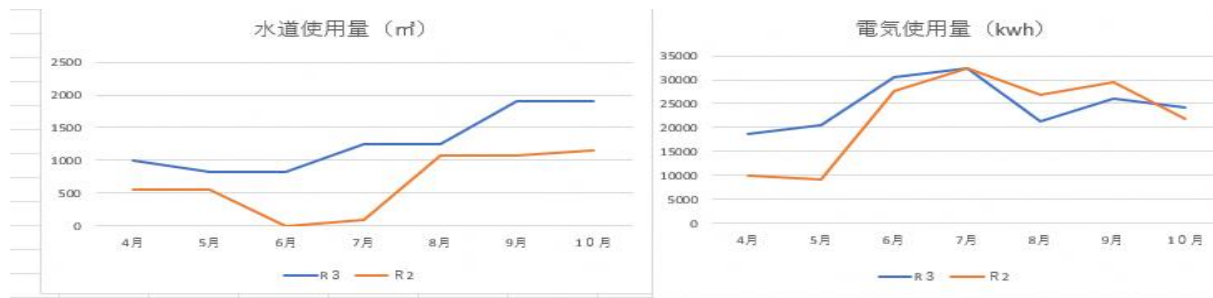
本年度は、ナイストライの代替活動の取組の中で、清掃活動や緑化活動を行った。災害時は、地域の避難場所となるため、学校内環境整備を行っている。また、地域交流事業で、地域の事業所に花プランターを贈ることができた。美化作業の取組を土台としながら、地域交流推進事業へと活動を広げることができた。今後、小学校の取り組みを知り、中学校の実践に繋げる小中連携を行う。さらに、全校集会、委員会便りで、緑化に関する事柄のお知らせを行うことができた。  
今後も、学級活動や委員会活動、部活動など連携を図りながら、ボランティア活動を一層活性化し、学校内外でSDGs活動に取り組む態度を育てていきたい。



### 【みんなで彩る～環境 ISO の取組～】

日常環境衛生検査（換気・温度・明るさ・騒音・飲料水・設備）を行い、感染症予防のためにも、記録を継続して見直しを行っている。また、各委員会目標掲示を行い、定期ごとに生徒会月目標を振り返り、全員で取り組む各委員会での実践課題を明確にし、見通しと振り返り活動を行った。今後も SDGs（持続可能な開発目標）と関連を図りながら、活動の取組を意識させていきたい。

また、生徒会のリサイクル・ボランティア活動では、厚生委員会活動でペットボトルふたを回収し、ポリオワクチンとして活用されることを校内放送やポスターで紹介し、環境保全や環境の改善に主体的に働きかけることができた。今後も、自ら問題解決していこうとする実践的な態度に繋げていきたい。



水道使用量と電気使用量を令和2年度と令和3年度を比較したところ、昨年度はコロナウィルス感染予防のため休校期間があり、4月から8月は水道使用量が本年度より低かったため、来年度以降、本年度のデータをもとに来年度と比較していきたい。電気使用量は、換気の必要性があり、エアコン使用によって月によって使用量の差が出ているので、今後も環境衛生に配慮しながら節電に努めていきたい。本年度のデータをもとに、換気との関連を図りながら来年度以降夏と冬の使用量データを比較し検討する。）

## 2 成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画活動を見直し、SDGs（持続可能な開発目標）と環境教育と各教育活動の関連を図ることができた。</li> <li>行事や地域交流活動との関連を図り、生徒会が主体となり、環境保全のための取組を組織化したものを定着させ、継続して行うことができた。</li> <li>学級園や外庭掃除では、1年～3年までパートナーシップで緑化活動を行い、西原中の伝統を繋ぎ学級園・花壇交流活動を行うことができた。</li> <li>循環型システムとして、学校の樹木の落葉から堆肥づくりを年間通して行うことができ、SDGsの視点での取り組みを意識させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の環境保全の取組を活かして、持続可能な社会をめざして、総合的（水保全・省エネルギー・資源活用）に捉える視点を広げ、環境保全への課題意識を高め、継続的に取り組む。</li> <li>生徒会活動と連携し、SDGsの視点を取り入れ、定期的に見通しと振り返り活動を行い、情報を共有させながら活動を充実させる。</li> <li>小中連携を図り、実践内容を共有し、主体的に取り組み、実践内容を充実させる。</li> <li>家庭・地域との更なる連携を図り、行事活動と関連させ、長期的に継続していくことが課題である。</li> </ul>